

< 9月-10月のギャラリー展示 >

『小児病棟内でのワークショップ』

9月10月は、コロナ禍前に行われていた小児病棟内でのワークショップの展示です。

開院当初から変わらぬ応援をしてくださっているボランティアメンバーのご夫妻は、京都でこどもの物づくり学校をしていた経験があり、2019年7月から2020年2月まで、毎月小児病棟病棟内で、看護師さんや保育療養さんと共に、切り紙のワークショップを実施してくださっていました。参加することも達の様子を毎月様々で、ハサミを持って紙を切れるこどもがいる時もあれば、目の見えないこどもに寄り添うお母さんが、こどもの手をとって話しかけながら作られる時もありました。医療スタッフも、勤務の合間にその様子をのぞいては、時に驚き、時には笑い、同じ時間を過ごしてくれました。夢中に工作する子どもたちをみて救われたのはご家族だけではなくたのかもしれない。

ワークショップが終わったあとで満面の笑みとキラキラした瞳で「楽しかったあ」と言ってもらえたり、お母さんから「長い入院生活で辛い苦しいことが多い中、こんな時間は本当にうれしかったです。」って言ってもらえたこと。それが私たちのご褒美です。と、ご夫妻はいつも楽しそうです。

ほんの少しの時間ですが、手を動かして一緒に物づくりすることの温かさが病棟に広がります。それはご夫妻の優しいまなざしと、ものづくりへの情熱がつくってくださる豊かで特別な空間です。

世の中が落ち着いて、また病棟内での物づくりの時間が戻ってきますように。。。

ゆきこ

